

〈活動報告〉

保育教育学科 1・2 年生による乃木小学校のボランティア活動 について

A Volunteer Activities at Nogi Elementary School by the Students in
Department of Early Childhood and Elementary Education

時 津 啓

(人間文化学部保育教育学科)

キーワード：ボランティア活動、小学校、キャリア・サポート

1. はじめに

昨年度に引き続き、今年度も人間文化学部保育教育学科では乃木小学校へボランティア活動を実施した。参加人数は 2 年生 14 名、1 年生 18 名の合計 32 名である。期間は 2019 年 11 月 11 日(月)から 2020 年 1 月 31 日(金)までである。学生を各クラスへ割り振り、基本的には、週 1 回、2～3 時間程度、授業の参観、授業内における学習の補助、時には採点や掲示の補助などをクラス担任の指示の下で実施した。

本報告では、学生への指導内容や学生の活動内容、さらには振り返りの会の様子などを紹介するとともに、今年度の活動を通して浮き彫りになった課題を明示し、次年度に向けた方策を検討する。

2. 幼保園のぎでの実践

1) 乃木小学校の概要

松江市浜乃木に位置し、児童数が 1000 名をこえる島根県内最大の小学校である。一学年およそ 160 名から 180 名の児童が在籍しており、教員数も 50 名もこえている。

2) 実践

(1) 実践の目的と内容

主に実践の目的としては、具体的な教育場面を見聞すると同時に、今後の進路選択やキャリア形成の一助とすることを目的としている。参加学生には、積極的に子どもたちと関わることを、さらには「教員の卵」としての自覚を強く求め、目的達成に向けて活動を行った。

学生の活動内容としては、授業においては、授業観察をはじめ、学習上支援を有する児童への学習補助等を行った。また、宿題の採点や確認の補助、さらには外国人児童の学習をサポートすることも行った。

授業以外にも、昼休みに子どもたちと一緒に遊んだり、給食の配膳をサポートしたり、掃除の時間において指導をする経験をすることもできた。その他にも委員会活動に参加し、児童の学習に関与することもできた。

(2) 指導内容

○事前指導 1 2019 年 10 月 21 日@生活科実習室

事前に保育教育学科学生へボランティア活動の目的・内容をメールにて知らせ、希望者を上記の日程で集め、オリエンテーションを実施した。ボランティア活動の意味や注意事項等を伝えた。

○事前指導 2 2019 年 10 月 30 日@乃木小学校会議室

濱岡教頭より、個人情報の取り扱い、欠席等の連絡方法、記録の記入方法を講義してもらった。その他にも、自転車の置き方、下足場の使用方法などの事務連絡を伝えてもらった。また最後には、ロールプレイングを行いながら、学生たちは子どもとの関わりを主体的に学んだ。

○事前指導 3 ボランティア活動開始前後

上記以外にも、必要に応じてメールで事務連絡を徹底するとともに、小学校における事前指導に参加できなかった学生には個別に時津が対応し、同様の指導を行った。

○事後指導 ボランティア活動の振り返りの会

2020 年 1 月 29 日@乃木小学校会議室

ボランティアの参加学生と時津、濱岡教頭にも出席してもらい、ボランティア活動の振り返りの会を開催した。事前に時津からメールで振り返りシートを配布し、学生にはそれらに記入してもらい参加してもらった¹⁾。振り返りの会の進行は濱岡教頭が務め、まず学生らによる小集団での意見交換、その後紙にまとめて発表を行った。

次に、乃木小学校の教員へのアンケートを濱岡教頭から紹介してもらい、満足度や課題を意識化した²⁾。



図 1 振り返りの会の様子



図 2 振り返りの会における学生の発表

(3) 活動の成果と課題～学生による振り返りシートより(一部抜粋)

○活動の成果

- ・今回、乃木小学校で教室に入って実際に児童に関わらせて頂いて、一番は勉強を通して子どもと関わることの楽しさを感じた。
- ・自分が抱いていた子どもたちへの印象と実際の子どもの様子が違ったということがあります。
- ・一番の学びは、今の小学校の様子が知れたことです。(中略) 子どもたちと話すとき、つい友達と話すのと同じように話してしまうので、丁寧な日本語を心掛けるのが難しかったです。
- ・子どもたちと関わっていく中で、適切な距離感を保つことが大切だと思いました。話し方や態度、目線の合わせ方など細かい所まで注意をして、関わり、子どもたちが安心して話したり、遊んだりできる先生でいることの大事さを知りました。

○活動の課題

参加学生の抱える課題は多い。さらにこのボランティア活動も2年目ということもあり、今後微修正はもちろん、目的を再度検討し、より充実したものへと変えていく必要があるだろう。例えば学生へボランティア活動中に困ったことを尋ねたところ、以下のような回答があった。

「ボランティアで、担任の先生の補助という立場で行ったので、どれだけ介入してしきったり、先生に何をすれば良いですかと聞いて良いのかもわからなかった」。このコメントからは学生がこのボランティアで何をすべきなの

か。自ら課題を発見できていない様子が分かる。さらに言えば、担任の先生へどのように接していいのかという困惑も垣間見える。これらを踏まえると、事前指導の徹底、内容の精査はもちろん、乃木小学校の教員らとも情報を共有したり、ボランティア期間内での微調整が必要と言えよう。

さらに学生からの要望として多かったのは次のようなものである。「学校行事にも参加したい」「他のクラスや学年の様子も見てみたい」。スケジュール上の制約があり、毎週同じクラスに行くことになり、他の学年の様子や運動会や文化祭などの大きな行事への参加が叶わなかった。ローテンションするなど工夫してほしいという意見も多数あった。このことは自らのクラスの実態をよく理解できた証拠とも言え、次なるステップとして、「他のクラスは？」「他の学年は？」という問題意識が芽生えたのだろう。ある学生の次のようなコメントはそれを象徴している。「毎回同じクラスに入れたのが良かったです。子どもたちとの関係もつくりやすく、初日と比べると多くの子どもたちが話しかけてくれて嬉しかったです」。

その他にも、一つの授業が完成するまでにどのような準備が行われているのかを見たいという要望もあり、問題意識や着眼点も先鋭化されたように思う。さらに、ケンカが生じた時の対処法が机上で学んだように振舞ってもうまくいかなかったことを経験した学生も存在し、理論と実践の往還が進むことを期待できるものとなった。

3. おわりに

今回の乃木小学校のボランティア活動を通して、運用上とキャリア形成の観点で大きな課題が明らかとなった。まず、運用上で言えば、本学が水曜日が会議日ということもあり、常勤スタッフの授業がないため、多くの学生が水曜日午後からのボランティアを希望した。しかしながら、乃木小学校では水曜日はクラブ活動と委員会活動の日ということもあり、学生側、小学校側双方のニーズに応えることができなかった。学生にはできる限り、多くの教育活動（中でも授業）を見たい(見てほしい)のだが、運用上スケジュール等を十分に考慮した上で設定できなかった。次年度は事前に小学校側のスケジュールを把握した上で、学生とのマッチングを行いたい。

次にキャリア形成の観点からの課題である。大勢として小学校側から肯定的な評価を頂き、参加学生自体も満足度が高い。それにもかかわらず、2月～3月にかけて、ボランティアに継続的に参加したい学生を募ったところ、若干5名しか継続希望がなかった。ボランティア活動のような参加型教育は成果が出るまでに一定期間を有するため、学生にはモチベーションの保持が何よりも必要不可欠となる。この点は、事前指導における動機づけも含めて再

【注】

[illegible]

²⁾ 乃木小学校教員に対するアンケートの一部

